

がんばってます神戸の農業

No.17 長尾町

多彩な農産物の生産が行われ、多様な農村地域がある神戸市の農業委員の地元を順次紹介していきます。

今回は神戸市北区の長尾町と、そこでがんばっている農家さんをご紹介します。

○長尾町

長尾町は、神戸市の最北部に位置する小高い丘に囲まれたのどかな田園地域です。その歴史は古く、弥生時代から人々が居住していたと考えられており、長尾町宅原の多聞寺の仏像3体は国の重要文化財に指定されています。近年は神戸リサーチパークが開発され、人口が増加するなど賑わいを増しています。

○がんばる農業者 うへだ 植田 かつや 勝也さん

植田さんが長尾町で農業を始めて今年で 15 年目になります。もともとは農業とは関わりのない生活をしていましたが、親戚のいちご農家の影響でいちご栽培に興味を持ち、千葉県の一ちご農家で修業をした後に、祖母の農地がある長尾町で観光いちご狩農園「ニコファームうへだ」を開園しました。

就農当初は手探りの毎日で苦労しましたが、地域のいちご農家からの支援もあり、現在は約 30a に生産規模を拡大しています。

農園で栽培されている品種は主に「章姫」「やよいひめ」の2品種です。それぞれの品種特性に合わせた栽培方法を検討されており、今年は「章姫」は高設栽培、「やよいひめ」は土耕栽培が行われていました。

好奇心が旺盛な植田さんは、いちごをより良いものにするために、多方面にアンテナを張って情報収集を行っており、水にこだわり、いちごに音楽を聴かせるなど、良いといわれることはなんでも積極的に試されていました。

様々な努力が実り、植田さんのいちご狩農園は年々人気が高まっており、毎年 1 月から 5 月のいちご狩の時期には、神戸市内からだけでなく、京都や奈良等の遠方からも合わせて数千人の来園があるそうです。

今年は感染症の対策にも力を入れており、安心して楽しんでいただけるよう入園規制も設けているとのことでした。

植田さんは、「いちご農家になって、栽培や病害対策は大変ですが、直に消費者からの喜びの声を聞くことができるのでとても励みになります。」と言われていました。

今後は、施設の充実にも力を入れ、来園者の負担軽減のためにも、高設栽培の増設を検討されているとのことでした。



~Profile~
1974年2月生まれ。2006年より農業経営を開始。主な栽培品目はいちご。



栽培されている品種「やよいひめ」